

6月20日よりパルシステムに売電

井土浜1号機より切り替え開始 あいコープみやぎが小売販売

4月27日のきらきら総会で、きらきら発電の売電先を「女川原発の再稼働を進める東北電力から、自然エネルギー・地域エネルギーの未来に夢を託すパルシステムに切り替える」ことを確認しました。その確認に基づき5月10日東北電力に井土浜1号機の販売先変更届けを提出、6月20日よりパルシステムに切り替わることが決まりました。

パルシステムは現在自然エネルギーの扱い量が8割。エネルギーの地産地消をめざすと同時に、地域を育てる地域エネルギーの発展を願っています。宮城県での販売は「あいコープみやぎ」が担当しています。ぜひ「あいコープみやぎ」に加入され、電力購入先を切り替えられることをお勧めします。

金山電雪の雪室見学会

男たちの熱い夢を冷たい雪に閉じ込める

5月18日水戸部理事長のふるさと山形県金山町で、NPO金山電雪の総会と記念講演会があり、きらきら発電から9名の会員が参加しました。

総会終了後、NPOが作った雪室を見学。雪室は民家の1階を利用して断熱材をふんだんに使って製作。雪室では、日本酒をねかすと味がまるやかになるとのこと。またじゃがいも・りんごなどを1冬保管すると、糖度が増しておいしくなる効果があるとか。実際にその日の夜の交流会で、まるやかな日本酒をみんなで楽しみました。(広幡)



秋の自然エネルギー見学会の下見実施

ひっぼ～飯館～元気あつぷ土湯～長井おひさま発電

5月15日～16日秋の自然エネルギー見学会下見を実施しました。見学先はひっぼ電力・飯館電力・元気あつぷ土湯・おひさま発電の4箇所。ひっぼ発電では沢水を利用した小水力発電(1.5kW定格・原価40万円)の実証実験をしていました。長井市のおひさま発電でも、田んぼの用水路を使って小水力発電(右頁参照・15kW定格)を開始。



ひっぼ・川下小水力発電所

きらきら発電市民共同発電所ニュース2019年6月号
〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12、広幡方
電話・FAX 022(379)3777 HP kirakirahatuden.com/
Eメール hirohata3777@outlook.jp

あいあいあい
2018年11月号 No.152号 発行/生活協同組合あいコープみやぎ 理事会 発行日/2018年11月5日 JICAセンターHPでご覧いただけます。住所/〒983-0035 宮城県山形市宮城野区日の出町3-4-17 TEL/022-284-7241 FAX/022-284-6973 HP/ http://www.aiai.jp

生産者さんに『あい』に行こう! ⑩ 東北おひさま発電の巻

『自立した地域』と『子どもの未来』を創る、 地域エネルギー発電所。



朝日連峰を背に田んぼに囲まれた水車小屋 景色が美しい

2017年10月から、あいコープが『パルシステムでんき』の取次を開始したことは、多くの方がご存知でしょう。再生可能エネルギー85%(2018年度計画値)という高比率の電気を供給しています。

今年10月、そのパルシステムでんきの発電産地に『東北おひさま発電』(山形県長井市)が新たに加わりま

した。今回対象となるのは小水力発電所で生まれた電気です。地元山形にこの発電所を作った理由として代表の後藤社長は、『太陽光よりも手続きは大変だし、なかなか認可も下りない。ですが、24時間発電し続ける小水力発電は小規模分散型を多く作ることで、地域に必要なエネルギーは十分生み出せるし、里山の可能性が広がるのです。』といいます。さらに今後の予定として、米沢牛飼育の盛んな置賜地方の特色を生かし、隣町の飯豊でバイオガス発電所をつくる構想があるそうです。『子供たちのためにも、地域を元気にしたい。住民と一緒に考え、ワクワクするしかけを作っていきたい。』とにこやかに語ってくださいました。それぞれの再生エネルギー産地にはその地域らしい物語と地域の自立を目指す力強さがあります。想いにあふれた発電産地を、是非応援していきたいものです。



発電には農業用水路を活用



小屋の中にある水力発電機



東北おひさま発電
野川3号幹線小水力発電所

私たちの暮らすふるさと東北は《自然エネルギー》の宝庫といえます。2011年3月11日に発生した東日本大震災は「再生可能エネルギーによる自立」の大切さを教えてくれました。太陽の力、水の力、風の力、大地の力、生物資源の力など、決して尽きる事の無い「自然から生まれる力」。そのふるさとの恵みに感謝しながら《クリーンな電力》に変えていくことの素晴らしさ。私たちの… 家族にも、職場にも、住まう街にも、みんなの地球にも、限りなくやさしい電力をつくり続けわちあうことが、未来の子どもたちへの最高の贈り物と言えるでしょう。パラダイムシフトは「小さな周縁」から起こります。グローバルからローカルへ。そしてピラミッドから草の根のコミュニティへ…。私たち東北おひさま発電は、未来に向けて共生しあえる「ふるさと東北」づくりの一助として、ふるさとの皆様と手を取りあって『地域エネルギー発電所』を、こころを込めて育てて参ります。
代表取締役社長 後藤博信

2011年3月11日。

あの日、私たちは決意しました。里山の美しい自然は、地域の力で守る。里山の生活を、地域が心を合わせて豊かなものにしていく。

あの日、あらためて気づきました。私たちの里山には豊富な地域資源があることを・・・

この恵まれた資源を地域の中で活用・循環して、美味しい食べ物を作り、子どもの教育とお年寄りの福祉をより充実していく。

「電力の自由化」は・・・

電力会社・電気料金を自由に選択するだけでなく地域の電力を自ら作り出し『エネルギーの地産地消』を現実にするのだと思います。

環境と住民の力を大切にして、持続可能な地域をつくる。小さいからこそ可能性があると確信し小さな成功の積み重ねに挑戦しつづける地域。地元で根差した組織や仕組みが役割を分担して助け合っていく地域。

こうした地域には明るい希望があると信じます。

“自立した地域”と“子どもの未来”を創るために『地域エネルギー発電所』を実現する。

3.11の私たちの決意です。

“自立した地域”と“子どもの未来”を創る、地域エネルギー発電所。

パーム油発電所やめて

原産国の自然壊し CO2削減に逆行



マス発電 バイオマスは生物由来の資源という意味です。木クズや家畜の糞(ふ)ど、さまざまな資源を使っています。

パーム油 アブラヤシの実から採れる油。菜種油などより安く、においがなく、即席めん、菓子などの加工食品、洗剤、せっけんなど日用品に「植物油脂」として使われています。

旅行会社のエイチ・アイ・エス(HIS)がパームバイオマス発電所を宮城県角田市に建設しようとしています。パーム油原料のアブラヤシは、熱帯林を伐採した農園で作られます。パーム油発電は原産地の自然破壊につながるため、環境保護団体や専門家から反対の声が上がっています。(武田祐一)



宮城・角田市での計画に 環境団体・専門家が反対

この計画は同社の子会社HIS SUPER ディーゼルエンジン4基(スーパー)電力が進め、と排熱回収発電機1基を

設置し、発電出力4万1000kwをめざすとい

うものです。騒音・事故が心配

宮城県の環境団体、NPOさらさら発電・市民共同発電所や宮城県民主

医療機関連合会のメンバーが12日、発電所計画予定地を視察しました。

現場は阿武隈川の堤防に面した都市計画の工業地域で、住宅地に隣接。

現在、造成工事が行われています。

一行は、日本共産党角田市議団の山下七郎さんと八島定雄さんの案内で調査しました。

山下さんは「HISはすぐ近くに送電線があり、仙台港からさほど遠くなく、取得しやすい土地だとしていますが、燃

料も荒れていたところ

がきれいになって喜ばれ、『うちもやってみよう』という声が出ています。耕作をやめようと思っ

た人も、もう一度頑張ろうという気持ちになっ

ています。『地帯再生の担い手づくりの課題があり、終わりはありませ

ん』と先を見据えています。

日本共産党の野田勝彦市議は「小水力発電の地域

の特色を生かすものです。支援、推進していき

たい」といいます。

平野さんは「都会からの移住者も増え、廃校

前だった小学校も5年後には児童数が17

人になる見込みです」とい

います。「地域再生の担い手づくりの課題があり、終わりはありませ

ん』と先を見据えています。

日本共産党の野田勝彦市議は「小水力発電の地域

の特色を生かすものです。支援、推進していき

たい」といいます。

平野さんは「都会からの移住者も増え、廃校前だった小

学校も5年後には児童数が17人になる見込みです」とい

います。「地域再生の担い手づくりの課題があり、終わりはありませ

配だ」と話します。市長は撤退求めず

山下さんは角田市議会

で、パーム油の増産によ

るインドネシアやマレー

シアでの自然破壊を指

摘。HISへ発電所の撤退を求めよう大友喜助

市長に要請しましたが、



HISのパーム油発電所の建設現場を視察する人たち=12日、宮城県角田市

市長は「パーム油原産国の自然に悪影響を及ぼすことはない。撤退を申し入れる考えはない」と答弁。山下さんは「このことを、もっと市民に知らせていきたい」と話します。

視察に参加した同NPO理事長の水戸部秀利さんは「国がバイオマス発電でもうかる構図を作ったのが問題です。海外からわざわざ燃料を運んで発電するのは、CO2を削減し環境への負担を減らす目的からはずれている」と指摘します。

この問題では国際環境NGOのFOEジャパンほか、たくさんの団体が建設に反対する署名に取り組んでいます。署名は、インターネットで「パーム油発電をやめて署名」で検索できます。

伐採すると泥炭地が露出し、大量のCO2が排出されます。森がなくなると土地が乾燥して火災も起き、希少な生物への脅威となります。開発地では土地をめぐる紛争や過酷な労働など人権問題なども起きています。

自然環境を守る国際的な認証をとったパーム油

が

使

わ

ら

れ

ば

い

ま

い

ま

い

ま

い

ま

い

ま

い

ま

い

ま

い

ま

い

小水力発電

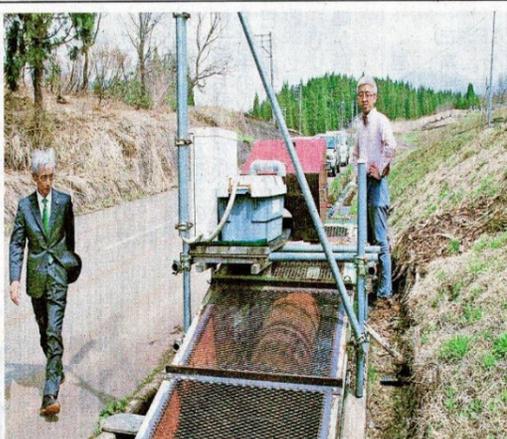
地域住民の精神的支柱

白山連峰に囲まれた標高700以上の「天空の里」、岐阜県郡上(ぐんじょう)市の石徹白(いとしろ)地区。住民が自ら小水力発電事業を運営し、地域の存続を模索する取り組みが続いてきました。

岐阜・郡上

濃淡さまざまの桃や桜の花に囲まれた市内の国道を北上し、つづら折りの山道を這(は)い上ると、標高983mの分水嶺(れい)、検(ひのき)峠を越え、谷には、冬は2メートルの雪が積もります。集落を流れる石徹白川は日本海に注ぎます。

集落の農業用水路では、直径90センチのらせん水車が回っています。



用水路に設置された小型発電機について説明する平野さん(右)。左は野田市議

ですが、住民自ら運営するのは「石徹白農場清流発電所」など2カ所です。石徹白農場清流発電所で発電した電気はすべて北陸電力に売電し、その収入で地域の再興に取り組みんでいます。

人口が5分の1 石徹白はこの60年間で人口が5分の1の250人にまで減り、耕作放棄地が目立つようになり、「何とかなりたい」と考えた住民100世帯が出資し、農業協同組合を設立。16年には石徹白農場清流発電所の稼働が始まりました。

発電機の設置は地元土木業者が発注しました。年間の売電収入の2400万円が自治会が負担していた公共施設の電気代を賄い、組合員が行う維持管理の費用も出します。見た目に明るく変化をもたらしたのは耕作放棄地の再整備です。荒れた農地に手を入れ、米とトウモロコシの栽培を始めました。農協参事の平野彰

再開したトウモロコシ畑で作業する上村さん

耕作放棄地の管理、耕作は農協の営農部が行います。地域の30人が登録し、可能な時に作業をします。4月下旬の平日、再開したトウモロコシ畑で3人が作業をしていました。若い2人と斜面の雑草よけシートをはがしていた上村敏治さん(78)は「小水力発電のおかげで若い人がやってくる。5月下旬ごろから耕すかな」と笑顔で話します。

農協組合長の上村源悟さん(68)は「17から18町歩(約17ha)あった耕作放棄地の一部を整備しました。十数

大崎・汚染廃

試験焼却中止 申し立て却下

河北

仙台地裁「理由がない」

東京電力福島第1原発事故の放射能で汚染された国の基準(1セシウムあたり8000Bq)以下の汚染廃棄物を大崎市岩出山のごみ焼却施設で試験焼却する事業を巡り、周辺住民が大崎地域広域行政事務組合と大崎市に中止を求めた仮処分申請に対し、仙台地裁(関根規夫

裁判長)は26日、申し立てを却下する決定をした。住民側は即時抗告する方針。

争点の一つで、岩出山町時代の1989年に住民組織が環境保全を目的として組合と交わした事前申し合わせの規定について関根裁判長は「機能や設備の変更や住民の範囲について具体的に特定しておらず、差

し止め請求の申し立ては理由がない」とした。

試験焼却が放射性セシウムの外部放出につながり、住民の人格権を侵害するという主張には「受忍限度を超える違法な侵害があるとはいえない」と判断した。

決定通知書を受け取った住民側は仙台市内で記者会見し、住民組織「上宮協栄会」の阿部忠悦会長(79)は「極めて怒りを感じる。我々の訴えを全く聞いてくれなかった」と述べた。組合管理者の伊藤康志大崎市

長は「司法の判断を踏まえ、なお一層の安全性に配慮し、試験焼却を進めてまいります」とコメントした。

阿部会長らは組合の試験焼却予算の差し止めを求め、住民訴訟を起してお

り、仙台地裁で係争中。

「ご家族で楽しい時間をどうぞ！」

「ご家族で楽しい時間をどうぞ！」

「ご家族で楽しい時間をどうぞ！」

「ご家族で楽しい時間をどうぞ！」